

## 問題【社会】

戦国時代から江戸時代に関する次の問いに答えなさい。

- (1) 江戸幕府を開いたのは誰ですか。
- (2) 徳川家康は人質として約11年間、どの戦国大名のもとで過ごしましたか。
- (3) 徳川家康が武田信玄に敗北した戦いを何と言いますか。
- (4) 天下人となった豊臣秀吉の命令によって下された新たな領土は何地方ですか。
- (5) 豊臣秀吉の死後の天下をめぐり、1600年に起こった天下分け目の戦いを何と言いますか。

## 豆知識 雑学コラム

### 太平を築いた徳川家康①

さて戦国時代のラストを飾るのは徳川家康です。「鳴かぬなら鳴くまで待とう時鳥（ホトトギス）」で有名ですね。機が熟すまで我慢して待つ。これができたから最終的に家康の時代がやってきたのではないのでしょうか。家康の我慢の一生を見ていきます。

家康は17歳まで人質として最初は織田家、その後の大半は今川義元のもとで過ごします。人質とはいえ、義元は家康を丁重に扱ったとされています。桶狭間で義元が討たれた後、独立をして織田信長と同盟を結びます。しかし、嫡男と妻が武田家との内通を疑われ、家臣に自分の嫡男と妻を討たせる苦渋の決断をさせられます。家康も信玄と敵対しているうえに、信長に逆らったら…と考えたのでしょうか。

さらに家康は人生の中で最大の敗北と言ってもいいくらいの惨敗をします。それが「三方ヶ原の戦い」です。この戦いは足利義昭からの上洛（じょうらく）要請を受けた信玄と家康が中心の戦いです。ここで家康は信玄の大軍相手に野戦で勝負を挑みますがコテンパンにされてしまいます。あまりにも無残に負けたため、自分への戒めとして「しかめ像」を書かせたという逸話が出るほど相当な敗北だったようです。

本能寺の変のときは、家康は上洛していました。しかし戦いのために来ていたわけではなく、京都を明智光秀に抑えられている以上、家康の身もこのままでは…というくらい危なかったのが「伊賀越え」です。家臣の奮闘により、命からがら自国に逃げ戻ります。その後は豊臣秀吉の時代になり、一時は秀吉と戦うも最終的には臣従します。ところが秀吉からは国替え（転封）により江戸に飛ばされます。今でこそ東京として大都会になっていますが、当時は田舎の中の田舎でした。ここまでくると、家康の我慢や根気強さは相当ですよね…。

まだまだ我慢エピソードはつきませんが、最終的に長く世を統一するのは信長でも秀吉でもないのが、家康のように根気強く、我慢強く活動することはとても大切です。勉強やいろんなことをすぐ投げ出すのではなく、結果が出るまで辛抱強く頑張ってみてください！

## 【解答】

- (1) 徳川家康
- (2) 今川義元
- (3) 三方ヶ原の戦い（三方原の戦いなど）
- (4) 関東地方
- (5) 関ヶ原の戦い